

# めぐみイエス・キリスト教会

2024年2月18日(日)第三主日礼拝

午前10時より

週報「通算第695号」



2024年標題聖句

マタイの福音書第6章33節

《まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

## ◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌266「罪咎を赦され」	p. 418
【交読文】	No.39 詩篇第122篇	p. 911
【賛美Ⅱ】	新聖歌284「ひたすら求めよ」	p. 453
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【先週説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナル曲No.1「愛の国となる為に」	
【聖書朗読】	ルカの福音書4章5節～8節(新約p. 115)	
【礼拝説教】	《悪魔の試み(そのⅡ)》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌165「栄光イエスにあれ」	p. 235
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

### ※本日の聖書箇所 (ルカの福音書4章5節～8節)

4:5 すると悪魔はイエスを高いところに連れて行き、一瞬のうちに世界のすべての国々を見せて、

4:6 こう言った。「このような、国々の権力と栄光をすべてあなたにあげよう。それは私に任されていて、だれでも私が望む人にあげるのだから。

4:7 だから、もしあなたが私の前にひれ伏すなら、すべてがあなたのものとなる。」

4:8 イエスは悪魔に答えられた。「『あなたの神である主を礼拝しなさい。主にのみ仕えなさい』と書いてある。」

## ●ポイント1.「マタイにおける平行同一記事」から

### ※マタイの福音書4章5節～10節「順序が逆になった試み」(新約p.5)

4:5 すると悪魔はイエスを聖なる都に連れて行き、神殿の屋根の端に立たせて、こう言った。

4:6 「あなたが神の子なら、下に身を投げなさい。『神はあなたのために御使いたちに命じられる。彼らはその両手にあなたをのせ、あなたの足が石に打ち当たらないようにする』と書いてあるから。」

4:7 イエスは言われた。『あなたの神である主を試みてはならない』とも書いてある。」

4:8 悪魔はまた、イエスを非常に高い山に連れて行き、この世のすべての王国とその栄華を見せて、

4:9 こう言った。「もしひれ伏して私を拝むなら、これをすべてあなたにあげよう。」

4:10 そこでイエスは言われた。「下がれ、サタン。『あなたの神である主を礼拝しなさい。主にのみ仕えなさい』と書いてある。」

## ●ポイント2.「それは私に任されていて」とは？

### ※エペソ書2章1節～2節「空中の権威を持つ支配者」(新約p.385)

2:1 さて、あなたがたは自分の背きと罪の中に死んでいた者であり、

2:2 かつては、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者、すなわち、不従順の子らの中に今も働いている霊に従って歩んでいました。

## ●ポイント3. 主イエスの引用された聖書箇所とは？

### ※申命記6章13節「モーセによる神様の言葉から」(旧約p.326)

6:13 あなたの神、【主】を恐れ、主に仕えなさい。また御名によって誓いなさい。

### ※ルカの福音書12章15節～21節「ある金持ちの話」(新約p.141下段)

## ◎先週の礼拝メッセージ【悪魔の試み(そのⅠ)】

《主イエスが、ヨハネからバプテスマを受けられた時、天から声がしました。「あなたは私の愛する子。私はあなたを喜ぶ。」

この声を、直にその耳で聞いたのは、バプテスマのヨハネ、アンデレとゼベタイの子ヨハネであり、そして悪魔なのです。それからすぐに、御霊は主イエスを荒野に追いやり、主は四十日間、悪魔の試みを受けられたのです。さて、悪魔は四十日四十夜にわたって、あらゆる限りの誘惑をしました。そして、最後に、三つの大きな誘惑を仕掛けて来たのです。今回は、最初の誘惑について、共に考えて見ましょう。主イエスは、四十日間、何も食わず、その期間が終わると空腹を覚えられた、とあります。その時、悪魔はこうささやきます。

「あなたが神の子なら、この石に、パンになるように命じなさい。」と。

これは、冗談ではありません。主は、成そうと思えば、簡単に出来たのです。しかし、主は、あえてそうはされず、悪魔に答えます。

『人はパンだけで生きるのではない』と書いてある。」と。

ここで誤解しないでほしいのですが、私たちの父なる神様は、私たちにパン(日々の糧)が必要なことは、百も承知です。主イエスは、『ですから、何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようかと言って、心配しなくてよいのです。まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。』と、約束されたのです。しかし、私たちは霊的存在なのです。肉のからだがあるように霊のからだもあるのです。霊的な糧を得る必要が、あるのです。

その糧とは、み言葉です。私たちの霊が、十分にみ言葉で満たされ、燃やされているなら、その健康的な良い状況は、傷つき疲れた心(魂)に、そして、疲れ、または病んでいるからだにも影響を与え、癒されることになるのです。それだからこそ、神の子どもである私たちは、毎日、み言葉による食事をしなければならないのです。》

### お知らせ

※次回は2月25日(日)となり、通常通り午前10時から行ないます。